



ジョキント
(アルカリ性)
除菌分解洗浄剤



ジョキント アストラ
(酸性)
水垢分解洗浄剤



ジョキント ソフィー
(アルカリ性)
油分分解洗浄剤



ジョキント エース
(アルカリ性)
万能洗浄剤



ジョキント セブン
(水溶性)
エタノール除菌剤



ジョキント コスモス
(中性)
コケ・藻洗浄剤



ジョキント ゼアス
(酸性)
すべり防止剤



ジョキント ガイア
(ガラスコート壁用)
表面保護コーティング剤



ジョキント アグルK
(フッ素シリコン混合体)
浸透性保護剤



sunstep-inc.com
サン・ステップ株式会社
特殊洗浄事業部

0120-514-384
大分市三佐3丁目8番24号
海原クリエイティブビル

NETIS
特殊分解洗浄工法「カビとり隊」
登録番号 QS-200033-A

汚とす技
魅せる技
獲れる技



汚とせ!!



●NETIS技術活用のメリットは？

工事成績評定への加点 : 総合評価落札方式での加点
公共工事で施工者がNETIS : NETIS技術の活用提案をすると、
技術の活用提案をし、実際 : 総合評価落札方式において加点
に活用された場合、工事成績 : の対象になる場合があります。
績評定の加点対象に。 :

※配点方式は地方整備局などによって異なります。

公共工事の受注の際に有利に!!

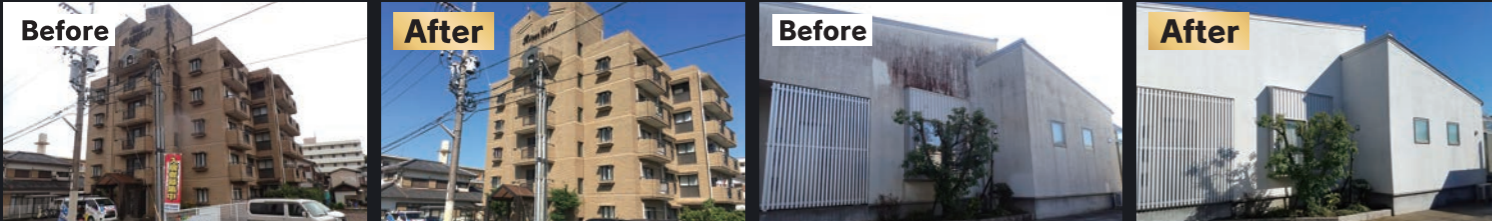
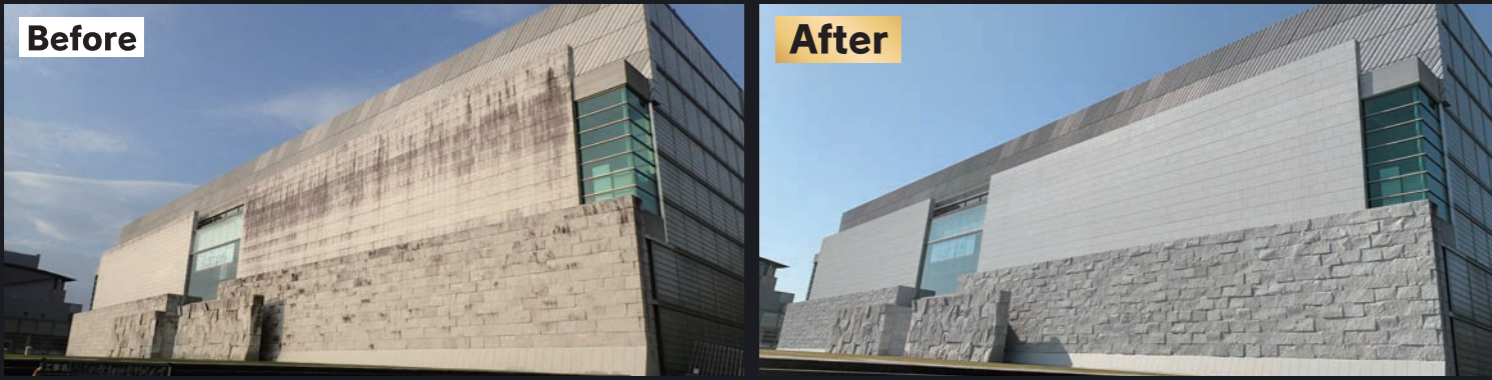


わが社は、企業活動を通じて、社会課題の解決に取り組み、SDGs達成に貢献しています。

項目	関連するSDGsのゴール	SDGs達成に向けた取組
環境に配慮した製品・サービスの提供	13 気候変動に具体的な対策を、12 つぶやみ・消費の責任、6 水と衛生	除菌洗浄工法「カビとり隊」では、食品添加物を主成分とし、人体にも環境にも配慮された洗浄剤「ジョキント」を使用。また素材を傷めることなく、元の姿を蘇らせる為、壊して作る事なく、限りある資源の節約に繋がっている。
地域への貢献	11 持続可能な都市とコミュニティ、13 気候変動に具体的な対策を	今までの洗剤を使用した洗浄や高圧洗浄よりも、カビの発生を長期間抑制する事ができ、床面での転倒リスク軽減等の安全面はもちろん、街の美観維持にも長期にわたり効果を発揮する事ができている。
働きがいのある仕事	8 豊かで持続可能な成長を、10 気候変動に具体的な対策を、4 質の高い雇用を	海外実習生を正規雇用し、専門資格の取得を奨励。また、職員全員の定期健康診断を実施。健康経営アドバイザーによるワークバランス・ストレスチェックを定期的に実施している。

我々はただの清掃屋ではありません。ご存じですか？汚れには必ず汚れる原因があります。原因を追究し解明することにより、素材を傷めることなく、綺麗を長期維持させる！カビとり隊は、そんなスペシャリスト集団です。

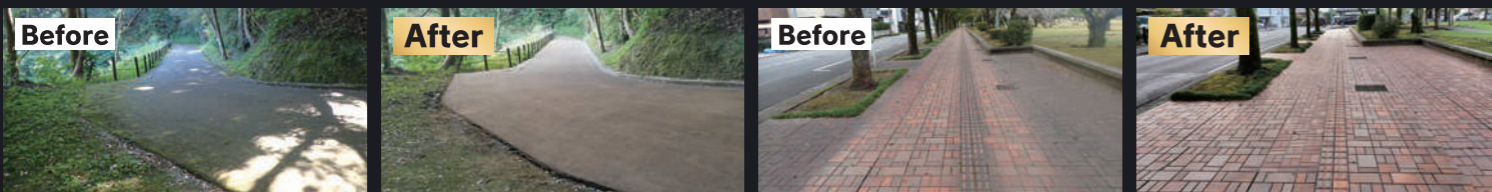
壁面 何度洗っても、直ぐ汚れる美観維持の対策に



屋根 屋根の防水や劣化防止の美観の維持対策に



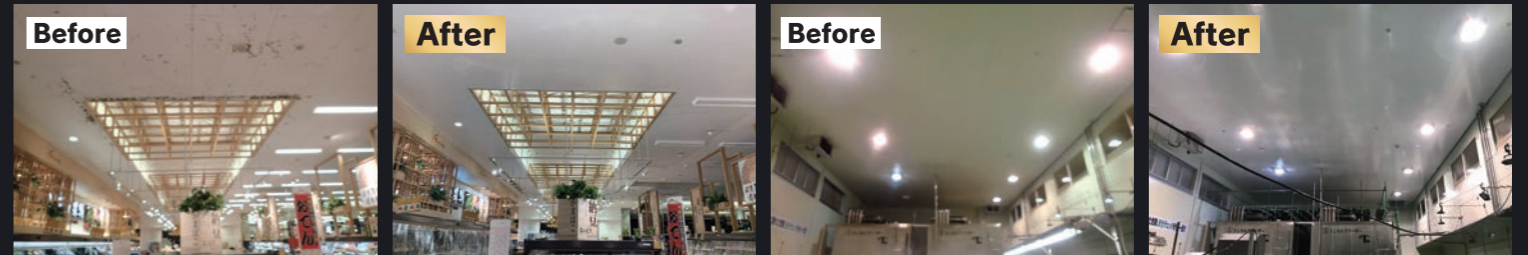
床面 すべり転倒事故の安全対策に



除菌洗浄後1年経過
(カビの再付着なし)

Before
従来の高圧洗浄後1年経過

室内 食品衛生法等に伴うハセップやISO等の衛生対策に



すべり転倒に伴う「安全」を数値で「見える化」
除菌の効果で施工前より4倍滑りに伴う「安全」を改善。さらに美観も維持。
汚れやウイルスに伴う「安全」を「見える化」

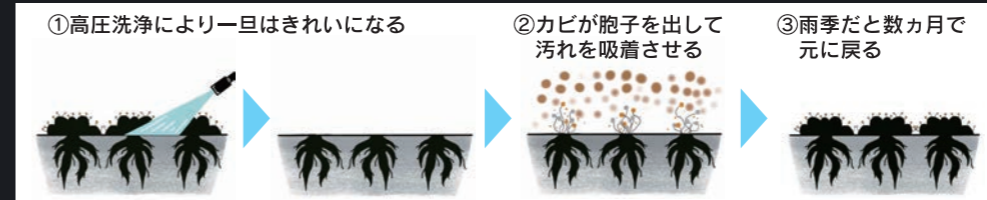
数値で判定し防衛する：滑り測定試験により洗浄前と洗浄後の数値を確認・判定



特殊分解洗浄とは？

カビを根元(菌核)まで除菌・分解することで素材を傷めず効果(安全や見栄え)を持続させる洗浄です。

従来の洗浄(高圧洗浄)



特殊分解洗浄カビとり隊では



C.S.R値

ご存知ですか？履物を履いて動作する床では基準の数値があることを。日本建築学会ではC.S.R値：0.4以上が推奨されています。

履物着用の場合の滑り 日本建築学会*の推奨値

床の種類	単位空間等	推奨値(案)
床路面 履物を履いて動作する	敷地内の通路、建築物の出入口、屋内の通路、階段の踏面・踊場、便所・洗面所の床	C.S.R=0.4以上
	傾斜路(傾斜角θ)	C.S.R-sinθ=0.4以上
	客室の床	C.S.R=0.3以上

(※(社)日本建築学会材料施工委員会内外装工事運営委員会 床工事WG「床」の性能評価方法の概要と性能の推奨値(案) (2008年6月))

ATPふき取り検査

ATPふき取り検査とは、細菌や残渣が残っている場合に存在するATP(汚染物質)を高感度に測定する方法である。結果が30秒程で得られることから、清浄度検査としては最も支持されている測定方法であり、「食品衛生検査指針」にも記載されている。2021年から義務化となるHACCP(ハセップ)においても、適切な配慮と準拠を示すための検査記録の維持・管理方法として推奨されている。

